

令和4年度 幼保小連携推進地区事業

活動報告

上寺尾小学校・やよいヶ丘幼稚園

【推進テーマ】

幼児教育と小学校教育の学びをつなごう ～顔の見える関係をつくる～



【年度当初の本地区の実態】

- 感染症対策のため、2年間、幼稚園・保育園と小学校の交流を行うことができていない。
- 感染状況も鑑み、可能な方法で、交流の再開を試みたい。

【目標】

- 幼児・児童双方の学びの場を設け、自己肯定感を高める。
- 教職員同士がつながり、目指す子どもの姿を共有する。



令和4年度 年間計画

4月	計画・立案
9月	職員研修(やよいヶ丘幼稚園・馬場保育園と合同) ・「子どもの絵の見方」 ・職員間意見交流
11月	やよいヶ丘幼稚園との交流
12月	馬場保育園との交流
1月	・カプラ教室(1年児童対象) ・振り返り・次年度に向けた計画

できることから、交流を再開できるようにしたい！！

1校2園合同職員研修 講演「子どもの絵の見方」

生活科・図画工作科を核とした 幼保小連携教育

題材の工夫

子どもの思い

価値づけ



褒めるとか 励ます の前に 子どもの
思いを見とることが大切

～講師 山崎正明先生からのメッセージ～

職員研修 講演「子どもの絵の見方」・職員の感想



- ・乳幼児期の表現活動がその先の人格形成にまでつながっているとのことなので、日々の保育の中で「造形活動」を大切にしていきたい。
- ・子どもの絵の世界に飛び込んで、子どもたちからたくさん話を聞きたい。

絵画を通した子どもとの関わり方の
共通認識



- ・子どもたちがかいた絵に質問し、理解を深めることが大切だということが印象的だった。子どもがどんな思いでかいたのかを知り、絵をみていきたい。
- ・作品のよいところを具体的に伝えて価値づけ、子どもとのやりとりを大切にする授業づくりを目指していきたい。



幼保小交流会について

・やよいヶ丘幼稚園・馬場保育園の2園と実施。

(感染症対策のため、別日に実施。)

☆幼稚園・保育園の先生・保育士からの要望や児童が挑戦してみたいと思ったことを基に、活動内容を決定。

学校探検

給食体験

プレゼント

① 学校探検

小学校にしかないもの(特別教室など)を見て、学校生活を
楽しみにしてほしいな。

がっこうには どんな
ものがあるのかな。



へやがたくさん
ある！

たいいくかんや
おんがくしつを
しょうかいしたい！



グループごとに、紹介したい場所を決めて、
案内しました！

②給食体験

小学校では、自分たちで、
給食当番をしていることを
知って、楽しみが増えたらいいな。

ようちえんでも、
きゅうしょくごっこを
したいな。



いっしょうけんめい
よそったよ。

1ねんせいって、
じぶんたちで
よそうんだ！



白衣の着方や配膳の仕方を伝えました！

③ プレゼント

こくごやさんすうって
たのしそう！



2年生からもらったみたい
に、自分たちが育てたアサガオの
たねをプレゼントしたいな。

学校の楽しいことを
お知らせしたいな。



1年生では、どんな学習をしているのか伝えたり、
生活科で育てたアサガオのたねをプレゼントしたり
しました！



児童の振り返りから

たのしかった うれしかった つぎにやりたいこと

ねんちゃんさんがきいてくれてうれしかった
ねんちゃんさんにあそびのたねをねんちゃん
さんにあげられてうれしかった
つきにはかんぽうたいしをいせとて
あそびのおのせつめいもあそびたい

たのしかった うれしかった つぎにやりたいこと

つききてくれたら、こういてあ
そびたいです。

たのしかった うれしかった つぎにやりたいこと

大きなこえでやっていたのしかたです
おはなしをしてくれたり、しつもんを
してくれてうれしかった。 ねんちゃん
さんがおもしろいといってくれ、きいて
くれるために、おもしろくしてあげたい

“やりがい“に加えて、次回の交流への意欲が見られました！

カプラ教室（令和5年 1月）

対象：上寺尾小学校 1年児童

ながしかくが
いろいろなかたち
になってすごい！



【ねらい】

- ・スタートカリキュラムで、カプラを活用できるように整備をしている。
- ・この教室での体験を通して、2年生に進級した際に、新1年生と一緒に遊んだり遊び方を伝えられたりできるようにする。

みんなで大きいさくひんをつくれて、
たのしかった！
あそびかたを 本にまとめたり、
手がみにかいたりしたいな。





令和4年度の活動の成果と課題

【成果】

- ・幼稚園・保育園と小学校の教諭・保育士がつながりをもつことができた。また、幼稚園・保育園の取組や、入学前の子どもの姿を知ることができた。
- ・交流する相手は異なるが、2回の交流会を行うことで、児童が「良かったところ」や「改善点」を考え、交流の場を工夫したり、声掛けの仕方を変えたりして、主体的に取り組むことができた。
- ・児童は、「4月になったら一緒に遊びたい。」「年長さんのためにゆっくり歩いた。」など、相手への思いやりや進級への意識・意欲をもち、活動に参加することができた。

【課題】

- ・感染症対策のため、前期は活動を再開することが難しかった。直接会うことが難しい時期でも関わりをもつことができるようにするための手立てが必要だと感じた。